

高校生と乳幼児のふれあい体験事業

「生命を育む“生と性”」講演会（6月20日実施）

アンケート抜粋

講演を受けて感じたことや考えたこと

- ・子どもが、産まれてくるのは、すごく大変なことだとわかった。
- ・キスをしただけで病気になることがあるんだな、と思った。
- ・精神的攻撃はしてはいけないと思った。
- ・4歳の妹を大切にしようと思った。母の手伝いもしようと思った。
- ・生命の誕生は何が起こるか分からないことがわかった。
- ・今の思春期の維持の仕方が、いかに赤ちゃんを産むときに大変かを知った。
- ・勝手に子どもをつくり、捨てる。まるでペットショップで売られている犬や猫のよう。人権は無意味だと思った。
- ・わかりやすく、勉強になった。
- ・3日間も陣痛だったのはとても大変。
- ・子どもを虐待するなんて信じられない。
- ・自分が今この場にいること、子どもが、産まれてくることは当然のことではないと思った。
- ・「女らしい」のが、ばかでかわいと言っていたのが、わからない。
- ・自分が生きているのは当たり前のことではなく、他の人から支えてもらっていることがわかった。
- ・改めて自分の大切さや、産む大切さを感じた。今ここで、嫌なことがあっても、楽しく、充実していることを感じた。
- ・子どもを産む辛さ、幸せを知った。
- ・周りの人と協力することが大切だと思った。
- ・将来、子どもを産もうか迷っていたが、いろいろ考えると産むほうがいいと思った。
- ・10代の中絶が増えていると聞いて、命というものがだんだん軽いものに思われているのかと思った。
- ・心の準備や体の準備をしておかないと中絶することになって、みんな不幸な気持ちになってしまう。
- ・赤ちゃんも親と同じくらい苦しい思いをしながら、産まれることを知った。
- ・自分たちが生きていることは当たり前でないと考えた。
- ・男女のイメージにとらわれず、自分らしく生きることが大事だと思った。
- ・性病の恐ろしさについてちゃんと知っておきたい。
- ・些細な言葉が暴力になるとは思わなかった。
- ・子どもを育てるのは、楽じゃないが、とても幸せなことだろうな、お父さん、お母さんの写真を見て思った。自分が親になったら、自分の子どもを大切にしようと思った。
- ・陣痛の時、旦那さんが体を支えたりすることは大変だと思った。
- ・助産師の仕事はとてもやりがいのある仕事だと思った。
- ・簡単な気持ちで性交をしてはいけない、と思った。
- ・お腹の中で、へその緒は意外と長かった。
- ・周りの人の手助けがとても必要だし、一番パートナーの助けが必要だからしっかりしてほしい。
- ・出産するのに、パートナーが大事って言っていたが、シングルマザーみたいなパートナー

がない人はどうしたらいいのかな、と思った。

- ・自分は帝王切開で、産まれたが、普通に産む、辛さ、痛さを知った。
- ・将来子どもを育てることになったら、命を大切にし、責任を持って育てようと思った。
- ・子育ては、自分が思っていた以上に大変だということがわかった。
- ・母親が子どもを虐待する確率が3人に1人と聞いて悲しく思った。自分の子どもを殺したりするのはありえない。
- ・子どもを育てるのは、すごく苦勞が伴うこと。肉体的に精神的に強くないと乗り越えられないと思った。
- ・妊娠中はとにかく気をつけてあげたいと思った。
- ・出産はリスクが大きく、とても責任が大きいことだと思った。
- ・男女の偏見がとても悲しいことだと思った。
- ・授業で学んで、知識としては知っていたが、実際に写真でみて勉強になった。
- ・出産はとても痛そうで大変そうだから、産みたくない。
- ・児童虐待はその人一人のせいじゃなく、周りで支えるひとにも原因があるのでは？虐待はいけないことだが、何かの原因があることを理解しないといけない。
- ・なぜ若いうち（学生とか）に性交渉をしたいと考えるのか、よく理解できない。興味本位か？産もうという気がないのにおかしい。
- ・命を大切にしないではいけないと思った。
- ・赤ちゃんはか弱いと思っていたが、とても精神的にも力強いと思った。
- ・私も結婚して健康でかわいい赤ちゃんを産みたい。
- ・中絶するくらいなら、はじめから妊娠しないように気をつけないといけないと思った。
- ・母親のほうが子どもを殺す確率が高いのに驚いた。
- ・将来よりよい関係を築いていくために、お互いが自他ともに個性を尊重しあい、生命の尊さを理解した上で過ごしていかなければいけないことを改めて学んだ。
- ・将来、ちゃんとパートナーを選んで、自立したら子どもをつくりたい。
- ・将来子どもが、産まれたとき、積極的に育児をしないといけないと思った。
- ・あかちゃんは育てられるお金や環境が整っていないと産んではいけない。
- ・親の支えも誰かがしてあげないといけない。
- ・思春期は自分自身を確立し、心と体が成長する大切な時期だと理解した。自分の命だけでなく、他人の命も大切にしたいと思った。私を産んでくれた母に感謝したい。
- ・虐待の件数が思ったより多かった。
- ・お母さんの方が虐待の件数が多くて、捕まっているとは思わなかった。
- ・子供は、1人でとか、2人でとかで育てるのではなく、みんなで育てていくものなんだと思った。
- ・子供が、産まれてくるときに、苦しそうに出てくると初めて知った。たくさんの助けの中で、産まれてきたから大切にしないといけないと思った。
- ・生きることの大切さを感じた。命のことをもっと考えなければならぬと思った。
- ・「女らしさ」「男らしさ」に縛られないことが大切。
- ・自分ではちょっとしたことも精神的暴力になることがわかったので、これからは気を付けたい。
- ・子供は、産まれてきて泣くのがあたりまえと思っていた。子供も一生懸命 出ようと必死に頑張っていることを知った。

- ・赤ちゃんが、産まれてくるまで、いろんな苦勞をして周りの人が支えてきたんだなあと思った。
- ・性交とはコミュニケーションの最高位。故に簡単にはならないことを改めて思った。
- ・自分が支えられて、産まれてきたことがわかった。
- ・命の大切さについて身に染みた。避妊・虐待についてもっと真剣に考えなければと思った。
- ・人間を育てるのだから、自分自身がちゃんとした人間にならねばならないと思った。子供のまま年月がだけが過ぎるのではなく、きっちりとした大人になりたい。
- ・軽はずみで言ったことも暴力なんだなあと思った。
- ・産むとき、育児期だけでなく、思春期の過ごし方もきちんと考えなければならぬと思った。

もっと聞きたかったこと、知りたいこと

- ・男の人の役割。
- ・性感染症の幹線経路について。
- ・産まれる前の赤ちゃんの詳しい様子。
- ・出産前の両親の想いや心境。
- ・へその緒はどうやって切るのか。
- ・一番感動した出産は何か。
- ・赤ちゃんとのコミュニケーションのとりかた。
- ・人工中絶になぜ保険がきかないのか。(子どもを育てるお金がないのだから、中絶のお金も出せず、そのまま出産してしまうのでは？子どもが不幸になるだけだと思う。)
- ・妊娠中、子どもに栄養を与えるために、母親はどのような食事をとればよいか？
- ・双子がお腹の中にいるときのこと。
- ・赤ちゃんが男の子のときと女の子のときで、母体やお腹の中にいるときなどで違いがあるか？
- ・子育てについて。
- ・出産のときの状況や気持ち。
- ・子どもを産む前と産んだあとの両親の生活の変化について。
- ・子どもが、産まれる瞬間の父親、母親の気持ちや命の尊さについて。
- ・さるの赤ちゃんも人間と同じか？
- ・大きくなった時のこと。反抗期について。
- ・「自分らしさ」について深く知りたい。
- ・好感が持たれるのはどんな人間か。
- ・虐待を防ぐ方法。
- ・陣痛や出産は男性にわかりやすいように例えるとどのくらいの痛さなのか。
- ・精神的暴力について。
- ・虐待をしてしまう両親の心情について。